

ドローン測量人材養成へ



地域産業に貢献できるドローン人材を育てる
(北海道ハイテクノロジー専門学校提供)



測量分野のドローン活用
が秘める将来性に期待する
(左から) 田口学科長
と上野センター長

強化。ドローンの授業を年間500時間展開する。こうした中、産業分野に直結するドローン人材を育てようという目的が測量だ。人手不足が激しくなった建設業界は、IT人材に目を向け、道ハイテクノロジーの卒業生が測量会社へ就職する事例が目立つようになった。測量の教育ノウハウが

道ハイテクノロジー専門学校と札幌工科大学

7月に新教育プログラム

北海道ハイテクノロジー専門学校は、札幌工科大学と連携してドローン測量人材の養成に乗り出す。ドローンの操縦・整備と測量のスキルを学生が一貫して学べる教育プログラムを7月から展開する予定。11日に専・事教育連携協定を結ぶ。道ハイテクノロジーの上野正博産学・高専連携センター長は「ドローンを使える測量士の卵が生まれる流れをつくりたい」と展望する。

道ハイテクノロジー専門学校は、測量士資格の取得支援や測量の本質的意義を教育できる仕組みを採った。札幌工科大学にこうした体制があること知り、24年に協力を打診。測量業界は国土地理院からドローン教育を要請されているが、札幌工科大学はその方法を模索していた。

道ハイテクノロジーのドローン授業に測量、札幌工科大学は1年生で測量士補の資格取得に挑戦でき、それから実務経験2年で測量士資格の取得が可能となる。上野センター長は「測量会社で入社後に札幌工科大学へ派遣して学ばせている例が多い」と話す。

ハイテクノロジーの田口

と聞く。道ハイテクノロジーで測量を知ってドローンを学んだ後、測量会社に就職して札幌工科大学に通うという流れもできるのでは」と展望した。用途を明確にしてドローンを学べる機会があることで、どういった世界で働けるのかという職業観醸成も期待。資格を取得した学生はインターンシップに送り出し、在学中から測量の現場を知ることができるようになる。両校の連携により、道ハイテクノロジーは「総合型ハイテックドローンスクール」という理想を描く。道ハイテクノロジーの学生の出身地は札幌圏と道内地方が半々の割合という。上野センター長は学生から地元愛を感じ、「うまく地方の会社と結び付けば地元に戻ってくれるのでは」と地方が抱える人手不足の打開も期待する。



承継した積丹町の「お宿かさい」(明善提供)

宇宙シェルター

建設技術で日

安藤ハザマは月面での新たな技術開発構想である「宇宙シェルター」と「ルナ・ジオフロント」を発表した。建設事業で培ってきた地下空間構築やトンネル建設技術を応用。月面や月地下に安全・安心な空間の構築を目指す。同社は2024年10月に宇宙技術未来創造室を設立。宇宙関連ビジネスへの関心が高まる中、宇宙開発分野での技術革新と事業拡大を構想している。

宇宙シェルターは、恒常的な銀河宇宙線や突発的な太陽フレアを対象にレゴリス(岩石由来の粒子や細かな欠片)を遮蔽(しゃへい)材料として使用した月面放射線防護装置に関する検討をするのが目的。使用用途は仮設作業所、休憩所、1次避難所を想定し、30年代の実現を目標に掲げる。ルナ・ジオフロントは、地下空間を天然シェルターとして活用する構

宇宙シェルター

厚労省24年

執

「なかふらの学園」省エネと環境教育両立

負担を軽減できる。

APIやモジュールと連

携できるため、段階的な機

能な長年この次で付

年に職場で

症による死